

大田区立郷土博物館、リニューアルオープン！

大田区立郷土博物館は1979年11月に開館した人文科学系の博物館です。この度、設備更新の工事が終了し、2021年4月1日(木)にリニューアルオープンしました。開館にあわせ、大田区の歴史をより広く深く学ぶよう常設展示を更新。また、新たに地域ごとの歴史が検索できる「おたの歴史探検ガイド」という非接触型の情報検索機能が導入されました。郷土博物館はモノを通じて、大田区のおよび学び場です。「地中に刻まれた歴史」「農漁村の風景」「馬込文士村」「近代化とまち」のテーマによる「おたのモノ語り」を是非お楽しみください。



「おたの歴史探検ガイド」地域歴史地図

「おたの歴史探検ガイド」テーマ別展示

田園調布の古地図時代	田園調布の古地図 田園調布の歴史 田園調布の発展	田園調布の古地図 田園調布の歴史 田園調布の発展
田園調布の古地図時代	田園調布の古地図 田園調布の歴史 田園調布の発展	田園調布の古地図 田園調布の歴史 田園調布の発展
田園調布の古地図時代	田園調布の古地図 田園調布の歴史 田園調布の発展	田園調布の古地図 田園調布の歴史 田園調布の発展

「おたの歴史探検ガイド」テーマ別展示



「おたの歴史探検ガイド」解説項目画面



大田区立郷土博物館

●大田区立郷土博物館(大田区南馬込5-11-13)
●9:00-17:00
●祝日は除く月曜、年末年始(12/29-1/3)
●特別展・企画展開催に伴う展示替え期間など
●03-3777-1070

*本展覧会の注目のイベント情報につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今後中止または延期となる可能性があります。最新情報は、各担当のSNSまたはホームページにてご確認くださいませますようお願い申し上げます。

オンラインで巡るアートな大田区

大田区内のアートをご自宅で楽しめる動画やウェブコンテンツを集めました。この機会にぜひご覧ください。

オンラインアートシアター ～おうちで楽しもう！～

おたの町の原宿特別展
つばし(大森)を動画でお楽しみください

大田区在住の原宿展、竹本英夫氏(数寄屋建築家・文芸)、本間隆史氏(刀研師)、米川文子(舞歌・音楽家)の貴重な姿を撮影したドキュメンタリー映像。

ほかにも、オペラやピアノ演奏、電子記念館の作品解説など、文化芸術に関するアートな動画コンテンツを順次制作公開しています。

●(公財)大田区文化振興協会 03-3750-1611

UniqueOTA Virtual Museum

馬込文士村の魅力を広く知っていただくドキュメンタリー映像を企画制作。大田区にゆかりのある作家の作品を題材に、漫画やダンスなどご紹介しています。

●大田区立郷土博物館 03-5744-1132

大田区立郷土博物館

「静海月ってどんな人?」をテーマに館内をご紹介! 言葉による資料解説と合わせて海月の一生をたどっていきましょう!(全7回)

●大田区立郷土博物館 03-6425-7608

大田観光協会公式チャンネル

映画と映画、大森と音楽など、地域の歴史・文化、ヒト・コト・モノのPR動画を順次制作・公開しています。

●(一社)大田観光協会 03-3734-0202

シクラメンclub

大田区出身のシクラメンが歌う大田区PR歌「手のひらにたばこ」がダンスをみながら楽しめるダンスが、集まったダンス動画を順次、つづいて公開。動画を公開中です。

●OTA公式チャンネルウェブサイト 大田区 03-5744-1226 (大田区文化振興課)

●観覧時間 / ●観覧場所 / ●アクセス / ●休館日・定休日 / ●料金 / ●主催 / ●お問合せ / ●電話番号 / ●Eメール / ●ホームページ

編集後記

アートと私 今般の新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、みづびち輝の取材活動が行えなくなっています。そこで、皆さんにこの期間に体験したアートな出来事をご報告させていただきました。

みづびち輝：馬込RINさん
 手平を食った後に横から5cm位、白い部分を剥して切り、プランターにーつ、またーつと集めた。数日後、初めて切った切り口から緑の葉が伸び始めた。ミニネギたちは早くもネギ初芽。曲がって青々、キリッとした伸びるなど、その姿は正にアート。

みづびち輝：板橋さくらさん
 本物の落ち葉のような跡で小道に投げ込むオブジェに驚かされます。大田図書館取手から自研町までの散歩道には、リアルな葉っぱのモチーフタイルが粉々に散りまわっています。行人は心をひっくり返される事、日常の可憐い悪戯なアートですね。

編集長：MOJOさん
 田園調布せせらぎ館に行ってきました。中央の四角の空間と左右に伸びる細長い2つの棟、短冊状の屋根の効果が実際に存在しない「橋」があるようにも見え、どこか宇宙の平等院鳳凰堂をイメージさせるエレガントな和のデザインでした。

注目EVENT

letter-silver-ribbon
 6月12日(土)～20日(日) ●平日13:00-18:00 土日11:00-18:00
 ●平日前席18:00-20:00
 ●予約券1500円(税別)



カリグラフィの横濱善洋代、シルバー・ジュエリーのSOLITO、ラッピングの菊池なをみを含む女性作家3人展、ジャンル違う3人の作家の作品を展示し、ワークショップも行います。

●アトリエ木玉(大田区田園調布本町2-10-11) ●水曜
 ●アトリエ木玉 info@atriekiryu@gmail.com

レストランディ
 毎月5月と11月の第3土曜 12:00-17:00



レストランディとはフィンランド・ヘルシンキから始まった食を通して交流するイベント。北欧雑貨と合わせて北欧の味もお楽しみください。

●Shop Sticka(大田区田園調布3-4-7) ●Shop Sticka
 ●Sticka@hokubook.com | hokubook.com/sticka/

ART bee HIVE

アート ビー ハブ



田園調布



●旧車庫建設現場視察の様子 ●開発前の田園調布 ●多摩川台住宅地平面図 ●渋沢栄一 ●田園調布せせらぎ(2階)と建築家・隈研吾さん ●開発当初の田園調布駅
 提供：●●●東急株式会社 ●大田区立郷土博物館 ●国立国会図書館ウェブサイトから転載。撮影：●●●KAZUKI

開発の手が入っていないので、自由に、夢が実現できる。

大田区立郷土博物館学芸員・築地貴久さん

田園調布といえば、日本の高級住宅地の代名詞ですが、かつては在野原調布村と呼ばれた農村。そんな地域が生まれ変わったのは、ある一人の男の夢からでした。「日本の資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一」です。大正の初め頃に、生活インフラが整った日本初の田園都市を構想したのです」と語るのは、大田区立郷土博物館学芸員の築地貴久さん。田園都市とは自然を取り入れた、田園趣味の豊かな街のことです。

日本は明治維新以降、富国強兵の号令のもとに急速な工業化を推し進めます。かつての東京市(および山手線の内部の地域)に工場と住宅が集中し、衛生環境は悪化します。渋沢は自然の欠けた都市は、肉体はもちろん道徳的にも悪影響を与えると考えていました。「1915年(大正4)、多摩川台・洗池付近に住む畑作右衛門なる人物が

渋沢に開発を提案します。以前から問題意識を持っていた渋沢の中でスイッチが入った。開発の手が入っていない農村地帯なので、自由に、夢が実現できる。1918年(大正7)田園都市株式会社を設立。開発を前に、渋沢は息子の秀雄を欧米諸国へ視察させます。「この旅で出会ったのが、サンフランシスコ郊外の田園都市セントフランシス・ウッド。田園調布は、この街を手本の一つにして生まれました。街の入り口にゲートとしての駅舎があり、駅を中心として放射線状に道路が伸び、街路樹が整備されている。噴水のあるロータリーも開発当初からあるものです。」

本年、田園調布エリアに新たな憩いの施設がオープンしました。国立競技場のデザインにも携わった建築家・隈研吾さんの設計による「田園調布せせらぎ」です。一度足を運んでみてはいかがでしょう。



築地貴久、Kenji Tsukagawa
 大田区立郷土博物館学芸員、建築家

大田区立郷土博物館は、2021年4月1日にリニューアルオープンしました。詳しくは4面をご覧ください。

紙面で紹介しきれなかった情報をWEB上で掲載しています。



*発行元：1840年(天保11)、現在の埼玉県岩槻市岩槻の農家として生まれる。その後、一橋家家臣となり、1万石俵田領主の一角として豊前、福岡、津浦を経て明治政府に仕出し、1873年(明治6)に官を辞し、実業家に転じる。第一国立銀行、東京株式取引所、東京ガスなど、500を超える企業や経済団体の設立に参画。60を超える社会事業に関与する。「信託銀行第一」とも呼ばれる。



田園調布せせらぎ憩いスペースのソファに座る隈研吾さん

建築が自然に対して敬意を表している

国立競技場、JR高輪ゲートウェイ駅、アメリカのガラス・ロレックス・タワー、スコットランドのヴィクトリア&アルバート博物館ダンディー分館等々、国内外で多数の建築の設計に携わる建築家・隈研吾さん。そんな隈さんが新たに設計した建築が、田園調布せせらぎ公園内にオープンした「田園調布せせらぎ館」です。

「幼稚園と小学校で合計9年間ほど田園調布に通っていました。自分の子どもの頃の思い出は、この辺りに集中しているんです。せせらぎ公園の敷地にあった多摩川園遊園地はもちろん、この周辺をぐるぐる回っていたというか、多摩川と一緒に育った感じがしますね」と語る隈さん。そんなご自身の思い出の地で、プロボイザルを礎て設計を手掛けることとなった田園調布せせらぎ館のコンセプトは「森の緑劇」。全面ガラス張りの開放感あふれる細長い休憩スペースから、公園の緑をたぶり楽しめます。「20世紀になって縁側空間がほとんど消えていって、家は閉じた箱になってしまった。家と庭=外との関係がなくなってしまうわけです。縁側というものをもう一回取り戻せたら、日本の都市は少しづつイメージが変わると思う。今回は建築の歴史に対して、自分なりの問題意識を提示してみたいですね。」

隈さんの建築の大きな特徴は、その土地の環境や文化になじむヒューマンスケールのやさしいデザイン。「せせらぎ館は決して小さな建物ではなくて、そのまま表現しちゃうと大きすぎて、森とのバランスが悪くなる。そこで、屋根をいくつにも分割して、短冊が並んでいるような形を考えました。周りの景観の中に入れていくような感じになったと思いますよ。」「せせらぎ館には庇がかかっていて、その庇が森に向かってお辞儀をしている。建築が自然に対して敬意を表しているんです(笑)」。

隈研吾 Kazuyo Sejima

1954年生まれ。東京大学大学院建築学専攻修了。1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を現任。東京大学特別教授・名誉教授。1964年東京オリンピック時に見た舟下隼三の代々木屋内陸技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を志す。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、(日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際木の建築賞、他)、国内外で様々な賞を受けている。

大田区 田園調布せせらぎ館



全面ガラス張りの開放感溢れる田園調布せせらぎ館全景

森の自然に囲まれた憩いと交流の場であり、多様なニーズに対応できる地域の文化活動の拠点として

区民の憩いの場として親しまれている田園調布せせらぎ公園。園内には湧き池があり、様々な水棲生物が生息しています。斜面にはかつての武蔵野を偲ばせる樹木が残され、多くの野鳥を見ることができます。そんな自然豊かな園内に、本年1月16日、田園調布せせらぎ館がオープンしました。設計は国立競技場のデザインにも携わった隈研吾さんです。

1階の「休憩スペース」は森に面した全面ガラス張りとなっており、公園の緑を満喫できます。また、「図書サービスコーナー」では、大田区立図書館にある資料の予約・受取・返却、図書館の利用者登録などができます。24時間対応の「図書返却ポスト」も設置されています。壁一面にレイアウトされた「せせらぎ文庫」には、館内で自由に読むことのできる絵本・雑誌・本を用意しました。「キッズスペース」や調乳用温水器・おむつ交換台が設置されている「授乳室」もありますので、お子さま連れの方も安心です。二つの「多目的室」と四つの「集会室」、さらに「和室」が1室あり、会議・講演会・コンサートなど、様々な集会・イベントに利用できます。入り口をはさんだ別棟には木の温もりにあふれたカフェがあり、公園の四季を感じながらドリンクやお食事が楽しめます。

田園調布せせらぎ館は、森の自然に囲まれた憩いと交流の場であり、多様なニーズに対応できる地域文化活動の新たな拠点の誕生です。



公園の緑を満喫できる1階「休憩スペース」

木材をふんだんに使った温もりの空間



伝統とモダンが融合した2階「和室」

ランチからディナーまで「カフェルシェロ」

- 大田区田園調布せせらぎ館
 ● 大田区田園調布1-53-12 ☎03-3722-5192
 ● 東急東横線・目黒線・多摩川線「多摩川駅」下車 徒歩1分
 ● 9:00-22:00 ＊新型コロナウイルス感染症の状況により変更となる場合がございます。
 ● 窓口受付：図書予約等・図書サービスコーナー 9:00-19:00
 ● 毎月第2木曜(祝祭日の場合は翌日)/年末年始(12/29～1/3)

撮影：KAZUKI

商店街 × アート

大田区内の商店街にあるアートスポットやイベントを紹介します。

作品を見るだけでなく、作家さんと地域の方との交流の場になればうれしい



白い空間の中、優しい光に包まれ展示される作品たち

- アトリエ木里
 ● 大田区田園調布本町2-10 1F ● 東急池袋線「御旗山駅」徒歩5分
 ● 平日13:00-18:00 土日11:00-18:00 ＊平日夜間18:00-20:00は予約制です。予約対応可。
 ● 水曜 ● atelierkiri@gmail.com ● atelierkiri.com/

アトリエ木里 (田園調布本町)

く、作家さんと地域の方との交流の場になればうれしいです。

4月17日から、グループ展「Look at Me! オナーの鈴木絵里さん」を開催予定のこと。「この1年は、コロナウィルスの感染拡大で、人と人が直接会うことがむずかしい一年でした。そこで人の顔や表情をテーマにした展覧会を企画しました。詳細は、メール・ホームページにてご確認ください。



オナーの鈴木絵里さん

- グループ展「Look at Me!」4月17日(土)～25日(日) 絵を観に来たはずが、たくさん人の顔に見られる……そんな体験をお楽しみください。
 参加費0円(定額2000円の3、ペーパー、ミクツラコ、絵本、画材)

アートレガシー in 市田区 vol.4

大田区内にある文化財にスポットを当てて紹介します。



＊当時の様子。現在はありません。

撮影：鎌倉市 2014年11月22日

鈴木家住宅 | 主屋 (田園登録有形文化財)

大田区田園調布

田園調布住宅街の一角に、赤い屋根が印象的な洋館が建てられました。昭和初期に建てられ、近年では数々のテレビCMやドラマ・映画の撮影地としても使われたこの家は、数年前に多くの人に借しめられ取り壊されたこと、田園調布では、相続や売買の過程で宅地割が細分化され、町並みが変化していく中で、開発当初の屋敷構えが残されている住宅も少なくなっています。そこで今回は、この地の歴史的景観を残していたかつての貴重な文化財として、この鈴木家住宅を紹介いたします。鈴木家は道路に接する区画の角地に建ち、広い庭地を有しました。田園調布では建築物と道路との間隔は道路幅の1/2以上確保することとされていましたが、この家の配地はそのルールの見本ともいえるものでした。

建物は本造モルタル塗りの2階建て。ベイウィンドウ(出窓)や数多くの上げ下げ窓を配し、屋根は複雑な構成となっており、点などが見所でした。屋内には畳が敷かれた部屋もありましたが、もとは内外とも完全な洋風住宅で、昭和初期の洋館建築の特徴を良く備えたものでした。解体直前に撮影された数々の写真からは、長年この家を守ってきたご家族が、建物をとても大切にしながら暮らしていたことがうかがえます。「大田区の文化財」第42集の調査報告でその一端をご紹介していますので、是非ご覧ください。
 文：花澤明徳美(大田区教育委員会文化財担当)

大田区教育委員会文化財担当 ☎03-3777-1281